

2013年4月21日(日)開催

AQUA SOCIAL FES!! 宮島の自然海岸で清掃活動

4月21日、腰細浦海岸で11年目を迎える海岸清掃を行った。参加者は、スタッフ込みで約100名。

今年も、トヨタ自動車が全国で展開する環境活動「AQUA SOCIAL FES!!」から資金や道具などの支援を頂いた。

また、カルビーからも多くの職員に参加していただくと同時に、海の事業にちなんで、かっぱえびせんを提供いただいた。その他、修大や広工大、安田女子大の学生にも参加いただいた。たくさんのお出会いと協力に感謝感謝。



●いざ、腰細浦海岸へ●

週間天気予報は雨で、当日の天気が心配だったが、朝から晴天でひと安心。多少風が強かったけれど良い清掃日和になった。参加者は朝9時に宮島口桟橋に集合。受付を済ませ、参加者のしるしとして、ブルーのビブスを装備。チャーター船と車に分かれて、腰細浦海岸に向け出発進行!

約30分の移動では、普段は行かない宮島の裏側の景色を楽しみながら『腰細浦海岸』に到着。

●2時間の清掃で約340kgのごみ●

海岸に到着したら、ごみ袋とAQUA SOCIAL FES!!提供の軍手やタオルを手に清掃活動開始。ごみの分別は、独自のルールで、発泡スチロールの破片・カキ養殖のパイプ・ビン・カン・ペットボトル・その他の6種。

清掃活動は約2時間。今回、一番多かったのは、いかだのフロートに使用される大きな発泡スチロール。大きな塊が、浜のあちこちに散乱していた。このままほおっておくと、風であおられ、岩に擦れてばらばらになり、雪のように舞い、積もっていく。プラスチック製品なので、自然に戻ることも期待できない。細くなった発泡スチロールを集めるのは至難の業である。続いて多かったのが、カキ養殖で使用される塩ビ製のパイプ。短いものから長いものまで45リットルのゴミ袋でおよそ26袋分もあった。短いものは、小指の第一関節程度の大きさで、こちらを集めるのはとても大変な作業である。



残念なことに、これらの事業系ごみは、なかなか減らない。

一方、ペットボトルや弁当ガラ、釣り道具などは、私たちの生活ごみ。私たち自身、日ごろの生活を見なおしたり、ポイ捨てをしないように心掛ける取り組みも必要だ。

清掃後は、ごみを処理しやすいように集めてきたごみを分別。いろいろな手法を試しているが、効率的な収集・分別方法があればご助言いただきたい。

参加者からは、「以前も参加したことがあるけれど、なかなかごみは無くならないね」、「清掃した後、海岸を歩くと、ある程度きれいになった気がして気持ちが良い」。などの声が上がった。



●私たちの生活は瀬戸内海とともに●

まとめの会では、集計したごみの量の発表や、感想交流、記念撮影などを実施して、昼食。各自持参のお弁当を持って思い思いの場所で景色と食事を楽しんだ。

その後は、貝殻を使ったオリジナルキーホルダーづくりや、潮の引いた浜での生きもの観察を実施。この一日を通して、『瀬戸内海には干潟や藻場など豊かな自然が残っており、私たちはその恵みをいただきながら生活している。汚れたところをきれいにする事はもちろん、そもそも汚さないようにするために、日ごろからの私たちの取り組みが重要だ』と思いを共有した。

事業名：AQUA SOCIAL FES!!2013 宮島の自然海岸で清掃活動		日時：2013/4/21（日） 9：00～15：00	天候：晴れ 時々風強し
参加者：82人（大人60人,小22人）	スタッフ：21人	清掃場所：腰細浦海岸	
主催：みやじま未来ミーティング・AQUA SOCIAL FES!!事務局 共催：廿日市市宮島公衆衛生推進協議会・中国新聞社・（一財）広島県環境保健協会 協力・参加：カルビー（株）、広島大学海岸工学研究室、広島修道大学ピアカウンター			
成果：清掃活動で集めたごみの量：341.5k g ・フロート（発泡スチロール）：170.0k g ・カキ養殖パイプ：121.5k g ・カン：3.0k g ・ビン：10.0k g ・ペットボトル：6.0k g ・その他（漁具・プラスチック片など）：31.0k g 参加者感想： ・海岸の清掃は初体験。また参加したい。 ・想定していたごみとは違うごみが多くあった。 ・最初きれいな浜だと思ったが、よく見るとごみがたくさんあった。 ・自然にふれ、地元の環境保全活動に参加したいと思った ・宮島以外でも開催してほしい		当日プログラム 9：00 宮島口栈橋集合 9：30 出航 10：10 腰細浦海岸到着 オリエンテーション 清掃活動開始 11：40 分別と計量 まとめ 記念撮影 12：15 昼食 中締め 13：30 クラフト・生き物観察 13：40 順次送迎開始 送迎後解散 15：00 終了	